

I 平成26年度事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

当財団は、平成24年度から平成26年度まで、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の管理運営に係る指定管理者の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を引き続き実施してきた。

平成26年度は、演劇部門において、看板事業でもある「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や同シリーズの番外編として『NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND (ニナガワ×シェイクスピア レジェンド)』を上演したほか、「さいたまゴールド・シアター」がフランス・パリを含む3カ国5都市での公演を成功させるなど、国内外に向け、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信した。

舞踊部門においては、世界的に活躍する振付・演出家による新作のほか、親子で楽しめるプログラムを上演するなど、当劇場でしか見られない独自性をもったプログラムを数多く上演した。

音楽部門においては、世界屈指のアーティストや若手実力派ピアニストによるリサイタル、交響楽団による公演など、多彩なジャンルの公演を提供した。また、大人から子供まで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシックや無料コンサートの開催、音楽を小・中学校の子供たちへ届けるアウトリーチ事業の実施など、多種多様な音楽ニーズに応えた。

その他、小学生とその保護者を対象として彩の国さいたま芸術劇場内の施設や舞台機構等を実際に見て触れることができる「劇場体験ツアー」を行うなど、地域の舞台芸術に対する関心・理解を深めるための事業に引き続き取り組んだ。

また、施設利用に関しては、いずれの館においても、安心・安全に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したり、財団ホームページ更新に伴い、利用者への広報を充実したりするなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。

なお、平成26年度は、彩の国さいたま芸術劇場開館20周年を記念して「オープンシアター」を開催するなど、多くの方々を迎えることができた。

1 事業の概要

(1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

ア 自主企画公演等及び国内外との交流（62事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館、熊谷会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

(ア) 彩の国さいたま芸術劇場（51事業）

a 演劇部門

蜷川幸雄芸術監督の演出による多彩なラインナップを展開した。

当劇場の看板である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、10月に第29弾としてローマ史劇「ジュリアス・シーザー」を上演した。また、彩の国さいたま芸術劇場開館20周年およびシェイクスピア生誕450周年を記念し、彩の国シェイクスピア・シリーズの番外編として『NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND（ニナガワ×シェイクスピア レジェンド）』と冠し、8月に男性俳優のみで演じられるオールメール作品「ロミオとジュリエット」を、1月に「ハムレット」の2作品を上演した。

平均年齢76歳の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」は、11月から12月にかけて、昨年度、好評を博した「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」を再演し、3カ国5都市での公演を行った。

4月には、英米でベストセラーとなったカズオ・イシグロの小説を原作とした「わたしを離さないで」、6月には、平成24年度に当劇場で初演され絶賛を浴びた、村上春樹原作の「海辺のカフカ」を新キャストにて上演したほか、9月には、当劇場ともゆかりの深い女優・白石加代子がライフワークとする一人語り「百物語」シリーズの最終公演を行うなど、国内外に発信し、より幅広い観客層の開拓を図った。

事業名	実施時期	会場
「わたしを離さないで」	4月	大ホール
「海辺のカフカ」	6月	大ホール
NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND 第1弾「ロミオとジュリエット」	8月	小ホール
白石加代子「百物語」シリーズ 第三十二夜 ファイナル	9月	小ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾「ジュリアス・シーザー」	10月	大ホール

さいたまゴールド・シアター「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」	11月・12月	香港・パリ・川越他
NINAGAWA×SHAKESPEARE LEGEND 第2弾「ハムレット」	1月	大ホール

b 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作、及び国内外で活躍するアーティストによる、多彩な身体表現の可能性を探る作品を提供した。

海外からは、フランスを代表する世界的アーティスト、振付家、演出家であるフィリップ・ドゥクフレの最新作「パノラマ」を上演するとともに、平成26年度秋からパリ・オペラ座芸術監督に就任したバンジャマン・ミルピエ率いるL.A.ダンス・プロジェクトが初来日、3作品を上演し、埼玉でいち早く紹介した。

国内からは、近藤良平率いる、生演奏、人形劇、映像、コントを展開する人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による8回目の埼玉新作公演を上演。また、さいたまゴールド・シアターがピナ・バウシュヴッパータル舞踊団の現役ダンサーである瀬山亜津咲の指導により、平成24年度から取り組み、平成25年度に「ザ・ファクトリー3」として上演した作品の本公演を実施し、その成果を披露した。

1月には親子で楽しめるプログラムとして、日本の昔話をダンスで展開する「日本昔ばなしのダンス」を開催。近藤良平振付『ねずみのすもう』と、気鋭の若手振付家 下司尚実振付の新作『いっすんぼうし』の2作品を上演した。

また、中学校の教科でダンスが必修化されたことを受け、振付家、ダンサーの岩淵多喜子による県内中学校の生徒を対象にしたダンス・ワークショップ「ミート・ザ・ダンス」を実施し、身体を使って自己表現することや、他者とのコミュニケーションを通して作品を創る機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ「ひまわり」	5月	大ホール
フィリップ・ドゥクフレ「パノラマ」	6月	大ホール
さいたまゴールド・シアター×瀬山亜津咲 本公演	8月	小ホール
ミート・ザ・ダンス(岩淵多喜子WS)	10月~12月	県内中学校
L.A.ダンス・プロジェクト	11月	大ホール
日本昔ばなしのダンス	1月	大稽古場

c 音楽部門

世界屈指のアーティストや若手実力派ピアニストによるリサイタル、声楽公演など、多様なニーズに応える公演を提供した。

注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって展開する劇場オリジナル企画「現在（いま）」シリーズでは、ヴァイオリンの佐藤俊介による初回公演を開催した。また、若手の中でも選りすぐりのピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」は、平成24年度から開始した「アンコール！」とともに継続して実施した。

また、彩の国さいたま芸術劇場開館20周年を記念して、日本のベテランが「次の世代に伝えたい名曲」を選りすぐったプログラムで行うリサイタル・シリーズ「次代へ伝えたい名曲」を、堤剛（チェロ）、仲道郁代（ピアノ）、堀米ゆず子（ヴァイオリン）を迎えて開始した。

加えて、世界のトップ・アーティストが集まったスーパー・アンサンブル、レ・ヴァン・フランセによるコンサート（学生対象の公開リハーサルも実施）、非常に精度の高い演奏でバッハや現代作品を得意とする世界屈指のピアニスト、ピエール＝ロラン・エマールによるバッハの《平均律クラヴィーア曲集第1巻》全曲演奏会、国際的な活躍が近年目覚ましく、彩の国さいたま芸術劇場での公演も毎年度恒例となっているバッハ・コレギウム・ジャパンによる《マタイ受難曲》公演など、トップ・アーティストによる重量感あるプログラムも積極的に展開した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を広く提供するためのポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサートや、オルガンを通じての音楽の普及啓発を主目的に、劇場所有楽器の弾き込みを兼ねた「みんなのオルガン講座」を継続実施した。

また、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。

事業名	実施時期	会場
バッハ・コレギウム・ジャパン バッハ《マタイ受難曲》	4月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート(第67回～第74回)	4月～3月	情報プラザ
次代へ伝えたい名曲(第1回～第3回)	5月～1月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ(Vol.24～Vol.26)	6月,1月	音楽ホール

みんなのオルガン講座	6月～2月	大練習室他
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！ Vol.3	9月	音楽ホール
池辺晋一郎の指揮とお話による楽しい東京混声合唱団アフタヌーンコンサート【共催】	9月	音楽ホール
ピエール＝ロラン・エマル バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》全曲演奏会	10月	音楽ホール
レ・ヴァン・フランセ(公開リハーサルを含む)	10月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート第71回 劇場20周年記念スペシャル	11月	情報プラザ
佐藤俊介の現在(いま) Vol.1	2月	音楽ホール
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	10月～12月	県内小・中学校

d その他

好評の「彩の国さいたま寄席」（年4回実施）を引き続き実施した。

7月には、ドキュメンタリー映画「ピーター・ブルックのザ・タイトロープ（原題）」を上映し、偉大な演出家ピーター・ブルックの秘められた創作過程に触れる貴重な機会を提供した。

また、「劇場体験ツアー」は、通常の公演のほかに、劇場の4つのホールを活用し、親子で楽しめる多彩な催しを展開する「特別版」として開催し、幅広い世代、層の方々に劇場や舞台芸術に親しんでいただく機会を提供した。

さらに、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力、大学生インターンシップを積極的に受け入れるなど、地域との連携を深める取り組みを行った。この一環として開館20周年を記念し、劇場を核とした地域・文化の在り方を考える公開講座『彩の国レクチャー・シリーズ「劇場と地域づくり」』を実施した。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他
ドキュメンタリー映画「ピーター・ブルックのザ・タイトロープ（原題）」	7月	映像ホール
劇場体験ツアー・劇場体験ツアー（特別版）	11月	大ホール他
舞台技術講座	8月～3月	小ホール他
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
彩の国レクチャー・シリーズ「劇場と地域づくり」	9月・11月	映像ホール他

(イ) 埼玉会館（9事業）

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として、毎年好評を博しているNHK交響楽団公演及び新日本フィルハーモニー交響楽団公演を継続して実施した。

また、大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・クラシック、平日昼間のランチタイム・コンサート、シーズン・プログラムとしてのニューイヤー・コンサートも引き続き開催し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供するとともに、新たな鑑賞者層を開拓した。これらの事業は地元商店街とのタイアップなど、より地域と密着した展開を図った。

加えて1月には、平成24年以来となる野村万作・萬斎による狂言公演を実施し、併せて狂言への理解を深めるワークショップを開催した。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート(第25回～第28回)	4月～3月	大ホール
尾高忠明(指揮) 小山実稚恵(ピアノ) NHK交響楽団	7月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストラランド！」	7月	大ホール
井上道義(指揮) 竹澤恭子(ヴァイオリン) 新日本フィルハーモニー交響楽団	11月	大ホール
埼玉会館ニューイヤー・コンサート2015 大谷康子&東京交響楽団室内合奏団	1月	大ホール
狂言「新春狂言 万作・萬斎の世界」	1月	大ホール

(ウ) 熊谷会館（2事業）

熊谷地区の夏の恒例公演として定着している「松竹大歌舞伎」を実施した。

また、「熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラランド！」を実施し、家族揃って音楽の魅力を感じていただくなど、県北地域の子どもたちが本物の芸術に触れることのできる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
松竹大歌舞伎	7月	ホール
熊谷会館ファミリー・クラシック「夏休みオーケストラランド！」	8月	ホール

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財

団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を行った。

a コンドルズ&ドゥクフレ 舞台写真展

第1四半期に行われる舞踊公演に合わせて「コンドルズ」とフィリップ・ドゥクフレ率いるカンパニーDCA「パノラマ」の舞台写真を展示した。

b ロミオとジュリエット展

8月に開催したニナガワ×シェイクスピア レジェンド第1弾「ロミオとジュリエット」の公演に合わせて、日本で上演された代表的な「ロミオとジュリエット」の舞台写真を展示した。

c 彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念展示

11月に開催された開館20周年記念イベント「オープンシアター」に合わせて、劇場の20周年を代表する公演の舞台写真を展示した。

d ハムレット展

1月に開催したニナガワ×シェイクスピア レジェンド第2弾「ハムレット」の公演に合わせて舞台写真の展示を行った。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや公演の内容を、一般の読者により分かりやすく伝えるとともに、財団の各種ご案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

a 発行回数、部数 6回 各13,000部発行

b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めたことにより、昨年度より103人の増員となった。「メンバー

ズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と会員価格とを設定し、財団のチケット販売戦略における基礎とすべく一般との差別化を図ることにより、チケットの販売促進を図った。

会員数 5,522人（平成27年3月末現在）

（エ）サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進を積極的に行い、サポーター＝企業のブランドイメージの向上を目指せる広報展開を図りつつ、サポーター各社の協力を得て会員の拡大に努めたことにより、昨年度より2社増加した。

サポーター会員数 102社（者）（平成27年3月末現在）

ウ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

（2）芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の3館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえ、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携強化を図りながら、利用者の問い合わせや要望に対し、より適切かつ迅速に対応し、利用者サービスの向上に努めた。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン～彩の国さいたま芸術劇場2013年版～」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対

する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行ったり、ホール催物のチラシを掲載したりするなど、利用者サービスの向上を図った。

一方、電気料金の値上がりへの対策も含め、空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 349,594人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	1,030	787	76.4
けいこ場・練習室	3,604	3,529	97.9
計	4,634	4,316	93.1

イ 埼玉会館

埼玉会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

また、武蔵野音楽大学楽器博物館と連携した「所蔵楽器写真展」では、展示室の有効活用と自主事業公演や県事業との相乗効果を図ったほか、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭との協力連携も行った。

さらに、大正15年に創設され歴史的にも建築的にも全国に誇れる価値を持つ埼玉会館のブランド力の発信を更に進め、「埼玉会館の建築—Architecture Art—」（講演会、見学会及び交流会）や「浦和文化の風景—県立図書館と埼玉会館—」（企画展）等の事業開催のほか、見学会を実施し、高い関心が寄せられた。

一方で、電気・ガス料金の値上げに対応するため、利用に支障の生じない範囲で節電等にも努めている。また、老朽化による不具合等には迅速に応急処置を施し、利用サービスの低下を避けるよう努力している。

総来場者数 703,717人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	6 4 7	5 5 6	8 5 . 9
会議室	5 , 6 4 7	4 , 7 2 8	8 3 . 7
展示室	1 , 0 1 6	7 1 8	7 0 . 7
計	7 , 3 1 0	6 , 0 0 2	8 2 . 1

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

ウ 熊谷会館

熊谷会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成26年度は、熊谷市が地域をあげて取り組んでいるクールシェアスポット（夏の節電対策の取組）に登録し、市民の憩いの場として緑のカーテンの設置や休憩室の開放などを行い、地域活性化の一助を担った。

また、財団ホームページの更新に伴い、熊谷会館の貸館公演広報の充実を図るとともに、会議室等の新規利用申込者に対し、ホームページを活用して説明するなど利用者サービスの向上に努めた。ホームページに対応できない方々に対しては丁寧な対面案内を行うことで、継続した利用をいただいている。

なお、平成27年3月31日をもって閉館されることから、老朽化によるサービス低下を避けるとともに、閉館まで安心安全に利用いただくために空調備品等の機能維持のための修繕には早急に対応した。

総来場者数 1 4 0 , 0 0 8 人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	2 4 9	1 4 4	5 7 . 8
会議室	9 0 8	7 3 3	8 0 . 7
展示室	2 9 3	2 3 7	8 0 . 9
計	1 , 4 5 0	1 , 1 1 4	7 6 . 8

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

(3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館及び熊谷会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

イ 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を管理運営した。

ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の施設内において、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を4回（4月、5月、1月、3月）、評議員会を2回（6月、3月）開催した。

3 役職員に関する事項

(1) 役員数（平成27年3月31日現在）

（単位：人）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

(2) 職員数 (平成27年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
館 長	2	—	2	県派遣 2
部 長	1		1	
グループリーダー・課長	6	—	6	県派遣 1
主 査	18	—	18	県派遣 4
主 任	13	—	13	
主 事	8	—	8	
技 師	1	—	1	
専 門 員	1	—	1	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	5	5	
計	50	8	58	県派遣 7